

福知山市・川合地域環境保全活動協議会 農村集落の維持に全力

多面的支払^な各種支援で 幅広な取り組みを展開

2016年度に5年間の活動期間が終了した府内101の多面的機能支払交付金の活動組織の内、約2割が活動を継続しなかったことがわかった。高齢化などの理由で今後さらに活動を取りやめる組織が出てくる



周辺の日照を確保するため法人オペレーターと集落の共同で放置竹林を伐採

ことが懸念されている。こうした中、福知山市三和町の川合地域(6集落、273世帯)では、高齢化率が50%を超える厳しい環境下にもかかわらず、交付金を有効に活用する仕組みを整え、地域の環境維持に

取り組んでいる。その最大のポイントは、活動組織「川合地域環境保全活動協議会」で話し合い、各集落で活動の必要性が理解され、集落間協働の合意が得られていることだ。

協議会は、多面的機能支払に加え、中山間直接支払、移住者の受け入れ、「共に育む命の里事業」など、諸事業の受け皿となっている。協議会で決定された取り組みは、地域の生産の担い手である(働)かたがたが事務局を担って活用可能な交付金を選択し、農家・住民への出役の呼びかけや集落を越えた出役調整を行っている。

作業は農家・住民の出役が基本だが、限界集落の場合などには、かわいのオペレーターが作業を行うこともある。

長岡京市 京タケノコが最盛期 農家が手をかけ高品質に

長岡京市で特産の「京タケノコ」が収穫のピークを迎えている。今年は暖かい日が続き、例年よりも10日ほど早く収穫が始まり、出来は形・品質ともに上々だ。同市産のタケノコは、柔らかくてえびみがなく、料理

たれるためだ。まさに農家がかけた手間の賜物(たま



井手町さくらまつり 500本の桜が満開



玉川の堤に連なる満開の桜の下、まつりは多くの人でにぎわった

「井手町さくらまつり」が3月31日から約10日間にわたり、町内の玉川の堤で開かれた。

『平成の名水百選』に選ばれた玉川の堤には、両岸約1500本にソメイヨシノ約500本が植栽されて

ものだ。各農家は早朝から「ホリ」と呼ばれる特有の道具を使って収穫に汗を流す。21、22日、都市農業振興クラブが開いた朝掘りタケノコの直売会「たけのこフェスタ」には、市内外から

おり、その足元には天平期に左大臣・橘諸兄(たちばなのもろえ)が植えたといわれ、数々の歌に詠まれている山吹1万2千本が彩る。

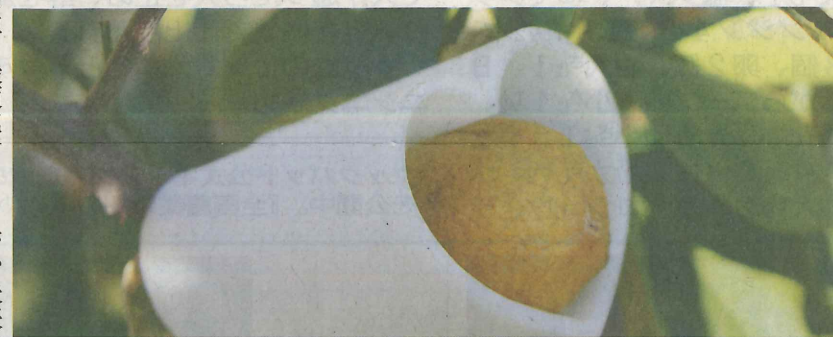
3月中旬から暖かい日が続く、例年より桜の開花が早かった今年は、まつり初日が土曜日ということもあり、多くの観光客が訪れにぎわいをみせた。

また、堤を進んだ先の高台にある地蔵院には、京都市・円山公園のしだれ桜と姉妹木といわれている桜がある。府の天然記念物に指定されており、来場者は足を延ばし、桜の一日を楽しんだ。

京 都

京都府支局
京都府農業会議
府庁西別館内
075・441・3660

ハート型レモン特産に “もうかる農業”めざし市民・学生と連携



女性委員が「つないで
京田辺市農業委員

女性の農業委員・最適化推進委員が「府内各地の取り組み」を交代で発信。毎月、元気になる話題をお届けします。

京田辺市農業委員会では、耕作放棄地の再生利用の見本を示すため、5年前、市内の遊休農地にレモンの苗木48本を定植し、大切に育てています。

農業委員会の委員全員と、ボランティアの市民・学生が参加するレモンサポ

与謝野町 木村 正典さん・有紀子さん

夫婦で就農「

与謝野町温江で「まさ農」を営む木村正典さん(49)と有紀子さんが就農したのには、約10年前。会社員だった木村さんが、家族ぐるみでつぎあいがあつた近所の農家・千賀誠八郎さんから「農業をやってみないか」と熱心に誘われたのがきっかけだ。

「5年をめどに自立する」と、当初の目標通り、現在、8畝とハウス2棟で九条ネ



ともに非農家出身。別々異なる作物を研修するなど意欲的な木村さん夫妻

農deきらきら